

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271100675		
法人名	有限会社在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホーム 奄美	ユニット名	1階
所在地	沼津市本郷町38-6		
自己評価作成日	平成27年2月23日	評価結果市町村受理日	平成27年5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail.2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2271100675-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成27年3月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた家庭的な環境の下、広い庭を活かし季節の野菜を育て、収穫する楽しみを感じて頂いています。毎月、四季を感じて頂ける外出や、行事を企画し、利用者様と一緒に行事のできる調理など、一緒に楽しむ事が出来るよう心掛けています。誕生日にはご利用者様の希望を伺い、馴染みの場所への訪問や、ご家族様との外出をして頂けるよう計画立案しています。地域や近隣の皆さまと助け合い暮らしていく事のできるよう、活動しています。一人ひとりの個性と価値観を尊重しながら生活の中で役割や出番を発揮できるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者の交代から間もなく一年になるが、前の管理者がケアマネージャーとしてサポートしており、円滑に移行している。管理者はこれまでの管理者や職員が培ってきた「奄美」の歴史を大切にしながら利用者や家族から「選んで良かった」と思われるホーム作りに取り組んでいる。理念実現には「ありがとう」と「笑顔」が一番であることを全職員が認識し、出勤時に入口の前で気を引き締めて業務に入る等、職員の心意気も伺うことが出来た。調査に伺うたびにお目にかかる利用者や職員が多く、馴染みの職員による介護支援や家族アンケートからも利用者や家族に安心をもたらしていることが窺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に事業所及び法人の理念を唱和する時間を設け実施していく事ができるよう努めています。	「そっと寄り添い 共に生きる」をホームの理念としている。理念実現には”ありがとう”と”笑顔”が不可欠として毎朝の法人理念唱和の際、交代で職員に今日の仕事への思いを発表してもらい意識付けを図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の会合、行事、地区文化祭、地域清掃や防災訓練への参加を通じ地域との交流を深めています。	利用者と職員で作った恵方巻や餅などを毎年ご近所にお届けしており、先方も楽しみにしている。地域高校生の訪問や地区文化祭で掲示スペースを用意していただく等、地域の一員として受け入れられ交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際にその時々状況について説明し、質問や相談に応じるようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度に実施。行事や活動、日々の暮らしの報告やスライドを用いてご利用者様の表情も見て頂きながら知って頂くよう努めている。また防災訓練も運営推進会議に組み込み意識向上に努めています。	家族が参加しやすいようにホームの行事を絡めて年6回開催されている。現状報告や課題については行政や家族に明らかにして助言をいただいている。利用者も参加して和やかに、かつありのままを見ていただいている。	今年度は自治会長や民生委員の参加が叶わなかったが、次年度は出席していただけるような取り組みが望まれる。出席できなかった家族への会議録の送付も一考されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員様の訪問が月に一度あり。また沼津市南部地区のGH連絡会議が2カ月に一度あり、沼津市長寿福祉課、地域包括支援センター、他事業所の方々と意見交換等、行っています。	各種報告書の提出時や運営推進会議の折に情報交換をしている。市が関わるグループホーム連絡会議はそれぞれの事業所が抱える問題や取り組みを共に考えて話し合い、サービスの向上に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング時や申し送り時になどに事例報告等で注意を促している。全ての職員が認識しています。	身体拘束ゼロ宣言事業所であり、職員はよく認識している。玄関は施錠しているが、外出希望にはその都度対応している。利用者の要望に対してすぐに応じられない時には理由をしっかりと伝えるように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	フロアミーティング、全体ミーティングなどで介護時の言葉掛け、支援方法などについて確認、把握に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に利用をされている方がおりますので今後も勉強する機会を設けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書面の読み合わせを行い、説明させて頂いております。不明な点についてはいつでも問い合わせて頂けるよう説明し理解していただけるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情報告、意見箱の設置を行っている。月に一度介護相談員様が来所しご利用者様の声を聞く機会を作っています。	利用者の意見はフロア会議で検討し、生活の質の向上に繋げている。家族から意見をいただいた場合には、振り返りの好機ととらえて管理者を中心に職員が検証し、改善に取り組み家族に説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフが提出したミーティング記録に対し、管理者からコメントを記入する事でフィードバックをしています。	フロア会議とは別に、主に運営面での報告や話し合う場として毎月全体会議を開催しており、意見を聞きとっている。また法人による研修や希望を尊重した人材育成制度等があり、職員の向上心を後押ししている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正社員2回／年、社員1回／年のペースで会社規定のキャリアパス考課を実施し評価が行われています。またその評価について、フィードバック面談を実施しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や資格取得への支援を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡会議や会社内外の研修に参加し他事業所との交流を図っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前アセスメントを行い、サービスの方向性をスタッフ間で共有し、自己決定や自立支援を行う上での課題の洗い出し、コミュニケーションに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前、ご家族にご本人様が何を望んでいるのか、どのような支援を行う事が出来るのかを傾聴し、ホームでの生活に馴染んで頂けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話をよく伺い、ご家族様が理解して頂けるような説明を心掛けています。専門用語での説明はせず、分かりやすい説明を心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	作品づくりや調理、清掃など自立支援を心掛け出来る力を引き出し行っていると思います。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の協力を頂き、家族との団らんや正月の外出、誕生日外出の同行をお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院受診の際に馴染みの売店での買い物や誕生日には生まれ育った場所の散策や友人の方を訪問されたり出来るよう支援しています	現役時代に通った馴染みの店へ出かけて食事をしたり、かかりつけ病院の売店や家族の働いているお店に寄って買い物をする等、本人の希望を確認しながら関係継続を支援している。また家族も同行して懐かしい場所を訪ねている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席や活動時の席などご利用者様の個性を考慮しながらご利用者様間の関係が良好になるよう努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族様にも、行事などのお知らせを行うようにし、いつでも立ち寄ってもらえるのできる雰囲気作りに努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話、生活の中から希望、意向の把握に努め、ご利用者様本位のプラン作成に努めています。	利用者の生活歴や習慣を把握した上で、心の通った職員のそれぞれの接し方で話しを良く聴き、意向を汲み取った支援をしている。業務日誌や介護計画書を通じて全職員が共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面談では生活歴を伺い把握するとともにご家族様にセンター方式シートへの記入をお願いしています。日々の生活の中でスタッフの得た情報は記録され、報告されます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に一日の記録がされている他、特別な事項は朝夕の申し送り及び各階の申し送りノートを使用し全スタッフに周知、共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の希望を伺うとともに一人ひとりの現状の把握に努め、必要時にはケアカンファレンスを行い検討します。担当者が情報収集を行い、必要に応じ関係者の意見を反映させます。	担当職員の”小さなケアプラン”から利用者の状況把握に努め、職員で意見を出し合い介護計画を作成している。3ヶ月ごとのモニタリングに加え、状況に応じた評価に基づいて6ヶ月ごとに見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の記入を行い、特別な事項についてはミーティングで検討し計画見直しに活かされています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院への付き添い、買い物同行等、必要・要望のある物については有料サービスとして支援しています。その他マッサージの依頼などの支援を行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練の実施、近隣の商店への買い物、食事等の外出や行事の際に調理した物をご近所に配るなどし交流を図るようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携として月2回の訪問診療と急変時の対応や看護師への連絡。歯科についても月2回の往診と歯科衛生士によるブラッシングを行っています。	協力医の往診が月2回、往診以外にも急な変化に対応してくれる。訪問看護師が週2回体調を把握し、職員は利用者に異常がなかった場合いち早く察知し、その場に付き添う事を徹底していて、家族の安心感を重視する姿勢がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に数回、巡回看護師による健康チェックを行っている。緊急時には協力医療機関、看護師と24時間体制での連絡対応が可能でず。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中に医師、看護師、ソーシャルワーカーなどから情報収集し、状況の把握、メンタル等に考慮し退院に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期について出来る事、出来ない事の説明を行い意向を書面に記入して頂いております。状況の変化があった時や考えが変わった時には再記入していただくようにしております。	入居時に重度化した場合の「指針」に基づいて事業所で出来ることを説明し、家族や関係者と方針を共有している。また、その後も状況の変化に応じて話し合い、急変した場合にも適切に対応できるようにチームの連携を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎朝の申し送り時に連携医療機関から頂いた症状別の緊急対応マニュアルを読み、周知を図っている。また社内研修に参加し必要な知識の習得に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の火災・地震発生時の防災訓練を実施し、火災・地震・風水害マニュアルを完備しています。また火災一斉メールでの会社全体への周知、有事の際の災害伝言ダイヤルの使用を視野に訓練を実施。	消防署の立会いの下で訓練を行い、地域の防災訓練に利用者と一緒に参加している。非常用食料や備品も準備している。運営推進会議においても、地域住民の理解と協力が得られるように働きかけている。	地域の方の参加や協力を得られるような協力体制の構築を期待したい。

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室への入室の際はノック、声かけを行う。入浴、排泄の際は身体保護、声かけに努めています。否定をせず、傾聴し否定をしない対応を心掛けています。	利用者一人ひとりのことを考えて、それぞれに合わせた言葉かけを行い、人格を尊重した対応をしている。出来ることを探してそれを大切にし、その人らしい生活ができるように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中からご本人の希望や想いを伺い、ご自分から自己決定できる様支援しています。誕生日にはご本人様の希望を伺い、希望に沿った企画を立てています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はありますが、無理強いせず、居室で過ごされたり休まれたり個々のペースを尊重し過ごして頂くようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣準備は希望に沿って一緒に行っています。馴染みの理美容を利用される方へ支援するとともに訪問理美容を手配し利用して頂いています。長髪希望の方には髪結い支援の実施。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮剥きや米とぎ、食器の片付けと一緒に行っています。野菜を手で千切って頂いたり、料理の味付けの助言、味見など出来る力の継続に努めています。献立にはご利用者様の希望を反映するよう努めています。	庭で育てた野菜を使ったり、サンドイッチにしたりと、利用者は簡単な下ごしらえや味見・後片づけなどの出来ることを分担している。ソフト食対応や食事の雰囲気も大切にしている。利用者同志のやさしい気遣いも見られ	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量や1日の水分摂取量を記録し、個々に応じた食事や水分の提供、主治医に相談し栄養補助飲料を処方してもらい摂取、障害のある方には刻みやトロミで食べやすいよう工夫しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはADLに応じた支援を実施し、夜間は義歯洗浄を行っています。月に2回は歯科往診をしていただき、必要な方にはブラッシングを実施。都度口腔ケア時の注意事項など指導をして頂いております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様の自立支援を心掛けています。排泄表を活用し、パターンを把握、スムーズな誘導を心掛けています。安易なおムツ使用をせず、入院等でオムツを使用していた方もリハビリパンツを活用し回復して頂くよう努めています。	職員は排泄パターンを把握して、声かけと時間を見計らうことによりトイレで排泄できるようさりげなく誘導している。パット類も個々の状態に応じて試み、オムツからパットにと自立に向けた支援を積極的に行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	オリゴ糖やオリーブオイル、繊維質の多い食品を摂取して頂くよう、調理に工夫しています。またレクリエーション活動などで身体を動かして頂くよう努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回の入浴を最低限とし、希望のある方には可能な限り提供できる様努めております。	概ね週2回を目安に、その日の体調を見極めながら言葉かけや誘導等工夫して希望に添えるよう支援している。一人ひとりの意向を尊重しながら勧め気持ち良く入浴できるようコミュニケーションを図りながら介助している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の体調に合わせて入賞して頂いております。暖かい飲料の提供や湯たんぽを提供し、リラックスして入眠していただけるよう努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を個人ファイルに綴じ、服薬時には服薬チェック表を活用しております。薬の変更時には申し送りでの伝達と共に申し送りノートに記載し共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様との会話からやご家族様との面談の中から出来る力を探りだし引き出すように努めております。スタッフが得た情報は介護記録に記し、ミーティングで報告、ケアプランに活かしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日は戸外に出る事を心掛けています。買い物や散歩の要望には出来る限り実施できるよう努めております。誕生日には本人の希望を伺い外出する機会を作っています。	日常的には散歩や庭での外気浴等利用者の力に応じて外出の機会を作っている。全員でいちご狩りや季節の花見や祭、家族との外出に職員が同伴したり娘さんのお店に買い物に行くなどと、個別にも対応して利用者の楽しみを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の要望によりご家族と相談、買い物などを楽しめるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の気持ちを尊重し、電話の取り次ぎや手紙の投函などの支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の改善に可能な限り努め、年間行事に合わせ四季を感じて頂けるよう努めています。事業所敷地内の果物や玄関口での花作りを行っています。	玄関に利用者の書いたポストカードが飾られ心とませている。内部の壁面には季節ごとの行事に出かけた写真や職員と一緒に完成させた創作品が掲示され、利用者と共に来訪者にも居心地の良い空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂リビングにはソファがあり、自由に寛がれたり、デッキに椅子を置き日光浴をしながら外気に触れる機会を作っています。エレベーターを使って1・2階自由な行き来もあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様にとって大切な物や馴染みの物は出来るだけ多くご家族にお願いして持ってきて頂いております。	利用者にとって使い慣れたベットや箆箭・テレビ・時計が置かれ、思い出深い家族写真やぬいぐるみもあり馴染みあるものが持ち込まれている。すっきりと整頓された部屋で利用者は安心して穏やかに過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有部には障害物をなるべく置かないようにし、居室内のベッドやタンスの位置などご本人様と相談し動きやすいように工夫しております。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271100675		
法人名	有限会社在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホーム 奄美	ユニット名	2階
所在地	沼津市本郷町38-6		
自己評価作成日	平成27年2月23日	評価結果市町村受理日	平成27年5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2271100675-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成27年3月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた家庭的な環境の下、広い庭を活かし季節の野菜を育て、収穫する楽しみを感じて頂いています。毎月、四季を感じて頂ける外出や、行事を企画し、利用者様と一緒に行事のできる調理など、一緒に楽しむ事が出来るよう心掛けています。誕生日にはご利用者様の希望を伺い、馴染みの場所への訪問や、ご家族様との外出をして頂けるよう計画立案しています。地域や近隣の皆さまと助け合い暮らしていく事のできるよう、活動しています。一人ひとりの個性と価値観を尊重しながら生活の中で役割や出番を発揮できるように支援しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に事業所及び法人の理念を唱和する時間を設け実施していく事ができるよう努めています。	「そっと寄り添い 共に生きる」をホームの理念としている。理念実現には”ありがとう”と”笑顔”が不可欠として毎朝の法人理念唱和の際、交代で職員に今日の仕事への思いを発表してもらい意識付けを図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の会合、行事、地区文化祭、地域清掃や防災訓練への参加を通じ地域との交流を深めています。	利用者と職員が拵えた恵方巻やお餅など毎年ご近所にお届けしており、先方も楽しみにしている。地域高校生の訪問や地区文化祭で掲示スペースを用意していただく等地域の一員として受け入れられ交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際にその時々状況について説明。質問や相談に応じるようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度実施しています。行事や活動、日々の暮らしの報告やスライドを用いてご利用者様の表情も見えて頂きながら知って頂くよう努めている。また防災訓練も運営推進会議に組み込み意識向上に努めている。	家族が参加しやすいようホームの行事を絡めて年6回開催されている。現状報告や課題について行政・家族に明らかにして助言をいただいている。利用者も参加して和やかな時間である。	今年度は自治会長や民生委員の参加が叶わなかったが次年度は出席していただけるよう取り組みが望まれる。出席できなかった家族への会議録の送付も一考されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員様の訪問が月に一度あり。また沼津市南部地区のGH連絡会議が2カ月に一度あり、沼津市長寿福祉課、地域包括支援センター、他事業所の方々と意見交換等、行っています。	各種報告書の提出時や運営推進会議の折に情報交換をしている。市が関わるGH連絡会議は他の事業所が抱える問題や取り組みを共に考え、サービスの向上に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング時や申し送り時になどに事例報告等で注意を促している。全ての職員が認識しています。	身体拘束ゼロ宣言事業所であり職員はよく認識している。玄関は施錠しているが外出希望にはその都度対応している。利用者の要望にすぐに応じられないときには理由をしっかりと伝えるよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉掛け、支援方法などについて、虐待とならぬようにミーティングで話し合いを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に利用をされている方がおりますので今後も勉強する機会を設けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始前に面談を行い、契約時には契約書面の読み合わせを行い、説明させて頂いております。不明な点についてはいつでも問い合わせるよう説明し理解していただけるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情報告、意見箱の設置を行っている。月に一度介護相談員様が来所しご利用者様の声を聞く機会を作っている。	利用者の意見はフロア会議で話し合い生活の質の改善に繋げている。家族から意見をいただいた場合には振り返りの好機ととらえて管理者を中心に職員が検証し改善に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフが提出したミーティング記録に対し、管理者からコメントを記入する事でフィードバックをしています。	フロア会議とは別に、主に運営面での報告や話し合う場として毎月全体会議を開催しており、意見を聞きとっている。また法人による研修や希望を尊重した人材育成制度等、職員の向上心を後押ししてくれる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正社員2回／年、社員1回／年のペースで会社規定のキャリアパス考課を実施し評価が行われています。またその評価について、フィードバック面談を実施しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や資格取得への支援を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡会議や会社内外の研修に参加し他事業所との交流を図っています。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前アセスメントを行い、サービスの方向性をスタッフ間で共有し、自己決定や自立支援を行う上での課題の洗い出し、コミュニケーションに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前、ご家族にご本人様が何を望んでいるのか、どのような支援を行う事が出来るのかを傾聴し、ホームでの生活に馴染んで頂けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話をよく伺い、ご家族様が理解して頂けるような説明を心掛けています。専門用語での説明はせず、分かりやすい説明を心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	清掃、調理等の家事や、作品づくりなどの活動を通じ出来る力を引き出し、自立支援に努めています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の協力していただき、お墓参りやご自宅への帰宅、誕生日外出の付き添いをお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院受診後にはご家族が働いている店に買い物に出かけたり、誕生日にはご利用者様の馴染みの店や生まれ育った場所の散策が出来るよう支援しております。	現役時代に通った馴染みの店へ出かけて食事をしたり、かかりつけ病院の売店での買い物、また家族の働いているお店に寄って買物をする等本人の希望を確認しながら関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の個性を考慮し、時に職員が仲介する中で利用者間の関係が良好になる様、努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族様にも、行事などのお知らせを行うようにし、いつでも立ち寄ってもらえるような雰囲気作りに努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中からその方の希望や意向を把握、ケアプランに反映させご利用者様本位の支援に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面談では生活歴を伺い把握するとともにご家族様にセンター方式シートへの記入をお願いしています。日々の生活の中でスタッフの得た情報は記録され、報告されます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に日々の記録がされています。特変事項は朝夕の申し送り及び申し送りノートを使用し全スタッフに周知される		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の希望を伺うとともに一人ひとりの現状の把握に努め、必要時にはケアカンファレンスを行い検討します。担当者が情報収集を行い、必要に応じ関係者の意見を反映させます。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の記入を行い、特熱な事項についてはミーティングで検討し計画の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院への付添や買い物の同行など必要のあるもの、要望のあるものについては有料送迎として支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受入、近所の商店への買い物、食事などでの外出、地域防災訓練への参加を通じ交流を図っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に医療連携の説明をご本人、ご家族に行っています。医療連携として2回／月での訪問診療と24時間連絡体制、巡回看護師への連絡。歯科は2回／月の往診とブラッシングの実施があります。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に数回、巡回の看護師による健康チェックが行われます。急変時には医療連携先看護師と24時間体制での連絡対応が可能です。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中に医師、看護師、ソーシャルワーカー等から情報収集し、状況を把握しメンタル面に考慮しながら退院に備えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期について出来る事、出来ない事の説明を行い意向を書面に記入して頂いております。状況の変化があった時や考えが変わった時には再記入していただくようにしております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎朝の申し送り時に連携医療機関から頂いた症状別の緊急対応マニュアルを読み、周知を図っている。また社内研修に参加し必要な知識の習得に努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の火災・地震発生時の防災訓練を実施し、火災・地震・風水害マニュアルを完備しています。また火災一斉メールでの会社全体への周知、有事の際の災害伝言ダイヤルの使用を視野に訓練を実施。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや対応に人格を損ねる事の無い様、スタッフ同士確認し合い支援しています。排泄チェック表など他者の目の触れる所にある記録物にはイニシャルを使用し、個人名が特定できないよう努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中からご本人の希望や想いを伺い、自己決定して頂けるよう支援しております。誕生日にはご本人の希望に沿った形で外出等の支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はあるが無理強いをする事無く、休息したい方は居室で休まれたり個々のペースで過ごして頂くよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1回／2カ月のペースで訪問理容を手配し利用して頂いております。 更衣の準備は一緒に行う事でご希望の衣類を準備して頂くよう支援しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	米とぎや野菜などの皮剥き、味見をして頂いたり食器の片付けを共に行っています。それぞれの出来る力を発揮して頂き、献立にはご利用者様の希望を反映させるよう努めています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量や1日の水分摂取量を記録し、個々に応じた食事や水分の提供、主治医に相談し栄養補助飲料を処方してもらい摂取、障害のある方には刻みやトロミで食べやすいようくふうしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ADLに応じた口腔ケアを行い、義歯のある方は夜間洗浄を行っています。月2回歯科往診をしていただき、必要な方には歯科衛生士によるブラッシングを実施。都度口腔ケアの指導など行って頂いております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意のある方はトイレでの排泄をしていただけるよう心掛けております。排泄表を活用し、排泄パターンを把握する事により失敗を少なくし、安易なおムツ使用に繋がらないよう努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	オリゴ糖やオリーブオイル、繊維質の多い食品を摂取して頂くよう、調理に工夫しています。またレクリエーション活動などで身体を動かして頂くよう努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低でも週2回の入浴を行い、ご希望の方には可能な限り提供できるよう努めております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前の温かい飲み物や湯たんぽの提供を行い、リラックスした気持ちで入眠して頂けるよう努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬情を綴じ、服薬チェック表を活用しております。薬の変更時には申し送りで伝え申し送りノートにも変更点を記入し周知を図っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時、ご家族との面談やご本人との会話から要望や出来る力を引き出せるよう努めています。職員が得た情報は記録しミーティングで報告しケアプランに活かす様にしております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は戸外に出るよう心掛けています。買い物や散歩の要望に出来る限り沿う事の出来るよう努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談しながらご本人の要望で買い物などを楽しんでいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の気持ちを尊重し、希望があればご本人様が事業所の電話を使いご家族様に電話をかけるお手伝いを行ったりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	年間行事に合わせ四季を感じて頂けるよう施設内で果物や野菜の収穫を行っています。夏場はグリーンカーテンの製作に取り組み、自然環境の中での断熱に取り組んでいます。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファがあり、自由に寛ぐことが出来る環境を整えています。1, 2階の行き気が自由に出来るようエレベーターを日中は開放しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様になじみの物や大切な物を持ち込んで頂けるようご家族様にお願いし、持ってきて頂いております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有部には出来る限り障害物を置かないようにしています。各居室には表札を掲げています。また居室内のベッドやタンスの位置などご本人、ご家族と相談して動きやすい工夫をしています。		